

ファーム伊達家からのおたより

ようこそ畑へ

2008年7月28日(月),7月31日(木)VOL.7

きゅうりが採れ始めました。「四葉（すうよう）きゅうり」という在来種（固定種）です。昭和19年に韓国から導入された品種なのだと思います。今年播いた種は長沼で2年、豊滝で3年、自家採種してきた種と新たに購入した種です。

昨年は、野菜セットにきゅうりを入れることができませんでした。一昨年自家採種した種を播いて苗を育てたのですが、苗を育てている段階で、半分ぐらいが枯れてしまいました。生き残った苗を、畑に植えたのですが、次々に枯れてしまいました。毎日きゅうりのところへ行ってみると、昨日まで元気だったきゅうりの葉が、ぐったりとしおれ、枯れていきます。たぶん、つる割れ病という病気だと思います。僕のお世話が悪かったのかもしれません。枯れ始めはどうすることもできません。残っているきゅうりたちに何とか枯れないでくれ、と祈っても効き目はありません。だんだん、きゅうりを見に行くことが怖くなってきました。野菜セットに入れるのは無理だな、とにかく種だけは採ろうと思い、残った何株かについたきゅうりを収穫せずに、種を探ることにしました。しかし、その後も次々と枯れて種を探るまでに至らず、最後に残った1株のたった一本のきゅうりから40個ほど種が採れました。その種を今年播いたのですが、必要な数には足りないので、行きつけの種苗店で種を買ってきました。

昨年のことを思うと、この種を大切につないでいかなければと思います。種がその土地になじむまでに8年ほどかかるといいます。思い起こされるのは、今年3月に訪ねた、千葉の農家・高橋博さんの「種を探ることで、農家としての心が育てられる」という言葉で

す。いろんなことを乗り越えて、ファーム伊達家の畑になじんだ種を作り、そして僕の心も育てていきたいと思っています。